

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2012年10月13日（土）、14日（日）、2012年度日本語教育学会秋季大会が北海学園大学豊平キャンパスで開催された。参加者は招待者・関係者を合わせて402名であった。

1. 1日目は、開会式に引き続き、一つの会場で特別企画パネルセッション、二つの会場で3件のパネルディスカッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。
3. 懇親会は、キャンパス内の学生食堂で行われ、招待者・関係者を合わせて85名の参加者があった。
4. 2日目には、四つの会場で25件の口頭発表、四つの会場で20件のポスター発表、二つの会場で3件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの分科会も盛況であった。
5. 両日にわたり、大会会場にて学会による東日本大震災義援金募金活動が行われた。

◆2012年10月14日（日）、北海学園大学豊平キャンパス1号館A203教室において2012年度第3回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2013年度春季大会の企画・運営について
立教大学・丸山千歌氏のご挨拶の後、事務局から準備状況の報告を受けた。
2. 今大会実施状況中間報告について
会場アルバイトにも簡単なマニュアルを事前配布した方がよいとの指摘があった。
教材紹介コーナーへの人の出入りをスムーズにする工夫の必要性が指摘された。また、教材紹介コーナーのチラシにごく簡単な概要紹介を入れる案が出された。また、「教材」以外のものを紹介する可能性についても今後検討することとなった。

デモンストレーションでは技術的なサポートのみを行うために参加手続き無しで会場入りする外部技術サポーターと受付との連携がスムーズにいかないことがあったため、事前の調整を綿密にする必要が指摘された。

パネルセッションの経過時間告知の方法として現在使用を控えているベルの復活の余地を検討することにした。

3. 発表規定関係の検討について
第2回委員会を経て得た委員会成案を7月28日の常任理事会へ提出した。その結果、委員会に対して出された

質問に対する回答書をWGで検討したことが報告され、2013年度秋季大会からの適用に向け、再度常任理事会へ回答書とともに規定改定案を提出することが決まった。

4. 2013年度秋季以降の大会について

2013年度秋季、2014年度春季に関しては決定ないしはほぼ決定したことを再確認したが、2014年度秋季大会以降については引き続き調査・検討中であることが報告された。

5. 今後の委員会日程について

次回の委員会は、2013年2月2日（土）に東方学会会議室において行う。

（砂川 裕一）

● 学会誌委員会

11月10日（土）午後1時～5時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

153号・154号・155号の刊行準備進捗状況および「査読の判定区分の改定について」の告知文について報告した後、以下について審議した。

1. 154号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補6件の決定。
 2. 154号投稿論文（投稿総数45本（研究論文27、調査報告8、実践報告6、研究ノート4））の審査。
 3. 158号特集の構成および執筆候補者の検討と、特集原稿の依頼および原稿確認の方法についての検討。
 4. 次期委員候補者についての検討。
 5. 論文投稿における倫理上の問題についての論文投稿FAQ掲載案の提起。
 6. 査読要領改訂についての審議。
 7. Eメール投稿に伴う投稿規定の一部修正についての審議。
- 次回委員会予定：2013年3月2日（土）

（山内 博之）

● 研究集会委員会

◆ 研究集会実施報告

1. 2012年度第4回研究集会（北海道地区）

日時：2012年7月1日（日）

会場：北海道大学国際本部留学生センター

参加人数：51名（会員37名（うち北海道日本語教育ネットワーク会員9名）、北海道日本語教育ネットワーク会員3名、一般11名）

内容：ワークショップ、研究発表（口頭7件、ポスター1件）

ワークショップ講師：川口義一氏（早稲田大学大学院日

本語教育研究科 教授)

題目:「日本語文法教育の革新―「文脈化」と「個人化」による「私の文法」指導―」

研究発表は、口頭発表7件、ポスター発表1件が行われた。内容は、スピーチ指導、日韓の助詞の定量的分析、オノマトペ、漢字指導、コミュニケーション能力の育成、日韓の翻訳授業、演劇を取り入れた指導、専門講義における日本語学習者の理解等、多岐にわたっていた。また、海外から参加の発表者が半数を占めていた。ワークショップは、講師の川口義一氏より日本語文法教育に関し、「文脈化」と「個人化」の重要性について、教育現場における豊富な実例とともに説明がなされた。講師の希望で質疑応答の時間も含め約30分間延長し、講師と参加者間で活発な意見交換が行われた。

(報告者: 飯嶋美知子)

2. 2012年度第5回研究集会 (関東地区)

実践研究フォーラム

日時: 2012年7月28日(土)~29日(日)

会場: 早稲田大学早稲田キャンパス22号館

参加人数: 179名(会員131名, 一般48名)

内容: 対話型セッション5件, 体験型セッション2件, ポスターセッション19件, パネルセッション

パネリスト: 池上摩希子氏(早稲田大学), 黒崎誠氏(ラポ日本語教育研修所), 家根橋伸子氏(東亜大学)

題目:「実践研究のプロセス―実践と研究のサイクルを考える―」

※詳細は下記のWEB版実践研究フォーラム報告を参照のこと →<http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/kk-Forumhoukoku.htm>

3. 2012年度第6回研究集会 (四国地区)

日時: 2012年8月4日(土)

会場: 明德義塾高校 龍キャンパス

参加人数: 60名(会員14名, 一般46名)

内容: 講演, 研究発表(口頭5件)

講演講師: 嘉数勝美氏(元国際交流基金)

題目:「言語政策としての日本語教育」

今回は、高知県の人口の半分が住む高知市を離れ、土佐市にある明德義塾高校龍キャンパスにて開催しました。高知県は東西に広く、新幹線はおろか、高速道路も未だ完成されていないという状況で、車以外に交通手段がないという悪条件の中、高知大学および明德義塾高校からは「後援」を頂き、具体的にはそれぞれの地域(高知大学は、高知大学-明徳間、明德義塾高校は、高知駅-明徳間)の往復バスを特別に運行して頂きました。お陰さまで、他府県からも多くの参加者を得て、無事、有意義な研究会となりました。

明德義塾高校には、300人以上の留学生がおり、高知の留学生教育は明德義塾高校無くしては語れないのです。そのような学校や高知の留学生事情および環境を観察していただく良い機会となったのではないでしょう

か?!

講演内容、研究発表ともに、遠くからご参加頂いた方々にも十分価値のある内容であったと担当者としては自負しています。有難うございました。

(報告者: 奥村訓代)

4. 2012年度第7回研究集会 (関西地区)

日時: 2012年9月1日(土)

会場: 日本学生支援機構大阪日本語教育センター

参加人数: 63名(会員40名, 一般23名)

内容: 講演, 研究発表(口頭7件)

講演講師: 鎌田修氏(南山大学)

題目:「接触場面の教材化~対話で伸ばすプロフィエーション~」

鎌田修氏から、学生が遭遇する接触場面を教材化する提案が行われた。接触場面の事例がビデオで紹介され、どの日本語学習者が一番日本語が上手と判定できるか、また、その理由はなぜか等の意見交換も行われた。日本語能力の判定基準やよりよい教材について考えさせられる内容であった。講演会場は、講師や参加者から互いに多くの意見や質問が出て、終始熱気に包まれ、非常に有意義であった。

研究発表は2会場に分かれ、助詞の誤用や発音指導、地域との連携、教科書の内容等、さまざまなテーマについて各会場とも活発に議論が行われた。

(報告者: 清水孝司)

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆ 会議記録

1. 研究集会全体委員会

(1) 2012年度第2回全体委員会 (2012年10月14日, 北海学園大学)

<報告事項>

- ・新規委員の紹介
- ・各地区からの報告

<審議事項>

- ・研究集会の運営方法について
- ・その他

2. 研究集会関東地区委員会 (実践研究フォーラム実行委員会)

(1) 2012年度第4回 (2012年10月2日, 学会事務局)

(2) 2012年度第5回 (2012年11月6日, 学会事務局)

(3) 2012年度第6回 (2012年12月4日, 学会事務局)

- ・2012年度WEB版実践研究フォーラム報告
- ・2013年度の実践研究フォーラムについて

3. 次回会議日程

(1) 2013年度第1回研究集会全体委員会

2013年5月26日(日), 立教大学(春季大会会場)
(2)2012年度第7回研究集会関東地区委員会(実践研究フ
ォーラム実行委員会)
2013年3月, 学会事務局

● 教師研修委員会

◆研修実施報告

1. 質的研究入門—原理・方法・実践—
講師: 佐藤郁哉氏(一橋大学大学院商学研究科)
開催日: 2012年10月7日(日) 10:00-13:00
会場: 桜美林大学四谷キャンパス
参加者: 61名
2. ヒューマンライブラリーへの誘い~多文化共生社会
を志向する際の「多様性」を考える~
講師: 工藤和宏氏(獨協大学)
開催日: 2012年10月27日(土) 13:00-17:00
会場: 早稲田大学早稲田キャンパス
参加者: 20名
3. 日本語教師が知っておきたい「地域」の課題
講師: 石井恵理子氏(東京女子大学), 中河和子氏(ト
ヤマ・ヤポニカ, 他), 矢部まゆみ氏(横浜国立大学,
他)
開催日: 2012年12月1日(土) 13:30-17:00
会場: 早稲田大学早稲田キャンパス
参加者: 34名

◆2012年度後半の研修予定

1. 教室活動のデザインⅤ
講座①「協働的読解活動のデザイン—創造的な学びの
場づくり—」
講師: 館岡洋子氏(早稲田大学)
講座②「学習者の作文分析を通して学び合う作文授業
の構築—要約・書き換えからレポート作成へ—」
講師: 木戸光子氏(筑波大学)
開催日: 2013年1月13日(日)~14日(月・祝)
会場: 政策研究大学院大学 定員: 各講座30名
2. 日本語教師のためのオンラインIT講座
講師: 中澤一亮氏(台湾・元智大学)
監修: 畑佐一味氏(米国・パデュー大学)
アシスト: 伊東克洋氏(米国・パデュー大学)
開催日: 2013年1月28日(月)~3月22日(金) 定員:
10名

※予定としていた研修「日本語教師が知っておきたい
「アーティキュレーション」(仮称)」は今年度は開
催せずに, 次年度に再検討することとなった。

※上記はいずれも予定のため, 研修タイトルや日時, 会
場等が変更する場合がございます。各研修の募集詳細は
決定次第, 日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ペー
ジに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2012年度第3回教師研修委員会(9月8日)
 - (1)2012年度研修報告
 - (2)2012年度各研修の企画および進捗状況
 - (3)次期委員候補者の選定について
 - (4)統計本企画について
 - (5)次回会議日程の確認
2. 2012年度第4回教師研修委員会(11月17日)
 - (1)2012年度研修報告
 - (2)2012年度各研修の企画および進捗状況
 - (3)次期委員候補者の選考について
 - (4)統計本企画について
 - (5)2013年度研修企画について
 - (6)次回会議日程の確認

◆2012年度次回の会議予定

第5回教師研修委員会(2013年1月または2月予定)

(古川 嘉子)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2012(平成24)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して, 会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること, 並びに, 海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り, 会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は, 必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店(普)130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払(海外在住者のみ受け付けま
す。事務局にお問い合わせください)。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に, 「年
度会費の自動引落システム」をご用意しております。全
国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)で

ご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係
(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年会費>

- 普通会員 10,000円(年額)
- 賛助会員 一口50,000円以上(年額)

● 住所等の変更について

128ページまたは130ページの書式にご記入の上、郵便
または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレス
を変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載
の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会
員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、
ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスに
ご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp